円居（まとゐ）

令和5年5月8日(月)
備前市立備前中学校
校長 藤森 卓麻
0869-64-3365

無限 ー昨日より輝く 今日の自分ー

今年度の生徒会スローガンです。無限の可能性を秘めた生徒たちが、日々成長していこうという思いを込めたスローガンだと思います。毎日成長し続けるというのは、かなり高いハードルになるかもしれませんが、未来に向かって「よりよい自分」「よりよい学校」を目指し続ける姿勢は大事です。と同時に思うのが、「よりよい自分」「よりよい学校」を**「目指すことができる備前中」**であることが大事だと思います。何かに一生懸命な人をみんなで応援できる学校、決してしらけることなく、みんなのことを考えて議論ができる学校。そんな備前中でありたいと思います。

正門横に掲げられている今年度の「生徒会スローガン」

ー 自慢の中央議会 ー

学校の未来が見えるフューチャールーム

先日行われた「中央議会」をのぞいてきました。中央議会というのは、生徒会中央役員（会長、副会長、執行委員、専門委員長）に、各クラスの学級委員長が加わり、定期的に開かれる会です。各担当ごとに現状報告と課題解決に向けての具体的な取組が報告されました。そこで終わると思いきや、その報告に対して質問や提案などが次々と出されていきました。どれも皆前向きで、備前中を自分たちの手でよくしていこうという空気がフューチャールームに漂っていました。初めてでやや緊張していた一年生にも、非常によい刺激となったのではないでしょうか。この空気感がそれぞれの委員会、そしてクラスへと広がっていくことを期待しています。

ー 自慢の掃除 ー

ある放課後、校長室前の廊下で何やら床をこする音が・・・。美術ボランティア部の生徒たちとそれ以外のボランティアの生徒も加わり掃除をしてくれていました。普段の掃除時間でも、生徒たちが無言で取り組む姿が見られます。

ひたすら床と向き合う・・・！

「掃除」について ～諸外国では～

以前勤務していたところで、オーストラリアからやってきた生徒がいた。その子が弁論大会で日本の学校で戸惑ったこととして述べた中に、「掃除」を挙げていた。日本以外の国で生徒自身が学校を掃除する国がどれくらいあるだろうか。何かの資料に34％とあった。（専門家に任せている、が58％）

私が赴任していた南米のペルーでも、生徒が学校を掃除する習慣はなかった。勤務していた日本人学校にも外回りを中心に掃除をしてくださる清掃員さんはいた。しかし、日本の教育課程に沿って教育活動を行う日本人学校では、自分の教室は児童生徒自身で行っていた。掃除そのものに目的があった。基本的生活習慣や公共心の育成、協働することの意義を学ぶ等々・・・。ペルーには日系の現地校がいくつかあり、毎年それらの学校と交流をしていた。現地の学校が日本人学校にきて授業体験をするのだが、そのときは必ず現地校の先生に「掃除を一緒にさせてほしい」とお願いされていた。自分たちの学校を自分たちできれいにする意識を身につけさせたい、とのことだった。ホウキを使うのも雑巾がけも全てぎこちなかったが、みんな楽しそうに取り組んでいた。日本人学校の子どもたちにとっても、掃除の意義についてあらためて考えるきっかけとなっていた。

備前中の生徒が無言で清掃に取り組む姿を見ていると、やはり自分たちで掃除をする意味はあると思う。やらされるものではなく、「自分たちの学校を自分たちの手で～」の活動として継続していくことを願う。

ポストコロナ期に臨む

コロナ禍の中、どの学校でも教育活動の見直しが活発に行われました。限られた条件の中でその活動の目的を達成することと、授業時間や生徒・教職員の負担とのバランスを考えることになったこの流れは、学校現場にとってもよい機会となりました。体育会は半日開催を定着させていきますが、これでも体育会の目的が十分達成できると考えます。逆に、本校の学校教育目標に沿って考えたときに、芸術的な活動を通して生徒が主体的に活躍する場がなくなっていました。つきましては、これを機会に次のようにさせていただきます。

■合唱祭の実施について

期日　10月21日(土)※学校開放日

次のように新しい形を工夫していこうと考えます。

・自由曲のみで実施

・審査は校内の教職員のみ　等

※詳細については2学期にご案内いたします。どうかご理解ご協力をお願いいたします。